

Disclosure 2019

城南信用金庫の 経営内容について

2019年度上半期

(2019年4月1日から9月30日までの6ヵ月間)



私たちはお客様応援企業として、地域の皆様の幸せを守り、地域社会の発展、繁栄に貢献します



当金庫の概要 (2019年9月末現在)

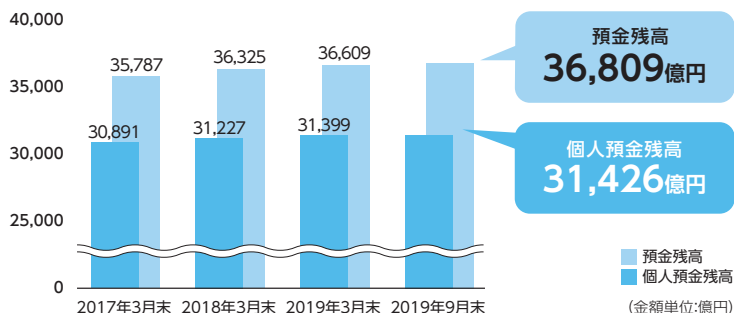
設立/ 昭和20年8月 会員/ 283,610名 出資総額/ 497億円 従業員/ 2,145名
本店/ 東京都品川区西五反田7-2-3
店舗/ 86店 (うち有人出張所2・インターネット支店1)

1 業績について

預金について

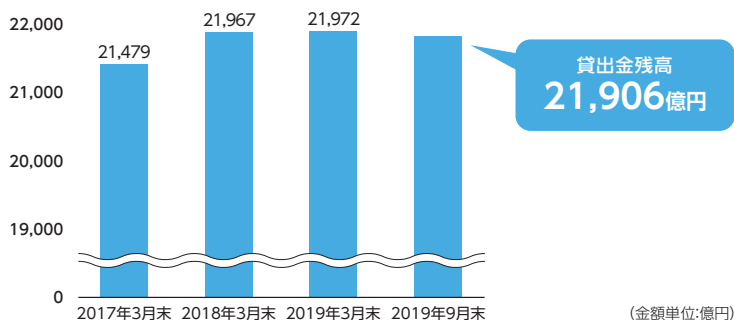
預金については、この半年間で200億円増加し、残高は3兆6,809億円となりました。

また、地域のお客様からの信頼、信用のバロメーターともいべき個人預金については、3兆1,426億円となりました。



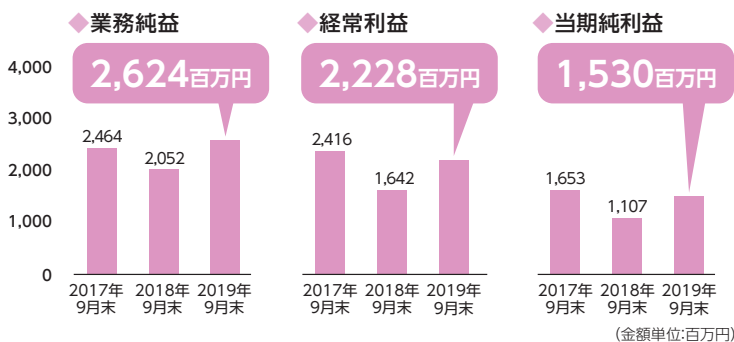
貸出金について

貸出金については、お客様に喜んでいただける融資の推進に取組んだ結果、残高は2兆1,906億円となりました。



2 収益について

収益については、本業からの利益である業務純益は26億24百万円、経常利益は22億28百万円、当期純利益は15億30百万円となりました。



3 自己資本比率について

2019年9月末の当金庫の自己資本比率は9.68%となり、国内基準である4%の2倍以上であり、当金庫の経営の健全性がわかりいただけだと思います。

◆自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額 (コア資本に係る基礎項目の額 - コア資本に係る調整項目の額)}}{\text{信用リスク・アセット + オペレーショナルリスク}} \times 100 = 9.68\%$$

自己資本の額: 1,825億円

信用リスク・アセット + オペレーショナルリスク: 1兆8,842億円

4 債務者区分別貸出先数・貸出金残高等、分類貸出金

当金庫では、全貸出先について自己査定を実施していますが、自己査定にあたっては、まず債務者の財務や経営実態に応じて、正常先から破綻先までの5段階に債務者区分を行います。その結果が次の「債務者区分別貸出先数・貸出金残高等」です。

◆ 債務者区分別貸出先数・貸出金残高等

(金額単位:億円)

		先 数	金 額 (構成比)
正 常 先	業況が良好で、財務内容にも問題のない先	46,022	16,100 (73.5%)
要 注 意 先	今後の管理に注意を要する先	6,122	5,233 (23.9%)
内 訳A	貸出条件緩和債権がなく、かつ期限経過・延滞が1ヵ月未満の先	6,088	5,158 (23.5%)
B	貸出条件緩和債権があり、かつ期限経過・延滞が1ヵ月未満の先	27	33 (0.2%)
C	期限経過・延滞が1ヵ月以上3ヵ月未満の先、ならびに要管理先のうち、無保全額が多額で、将来においてリスクの発生する可能性が高く、個別に引当を行うことが望ましい先	7	42 (0.2%)
破綻懸念先	事業は継続しているものの、今後、経営破綻に陥る可能性がある先	1,076	385 (1.8%)
実質破綻先	実質的に経営破綻の状況に陥っている先	247	76 (0.3%)
破 綻 先	法的・形式的に経営破綻の事実が発生している先	66	17 (0.1%)
国・地方公共団体 (回収について危険性がなく、債務者区分を行っていません)		2	94 (0.4%)
合 計		53,535	21,907 (100.0%)

次に、債務者区分毎に、担保・保証等による債権回収の可能性を精査して、貸出金をI分類からIV分類までの4つのランクに分類します。その結果が次の「分類貸出金」です。

◆ 分類貸出金

(金額単位:億円)

	金 額 (構成比)	償却・引当 予定額	償却・引当後 無保全額(見込み)
I分類 回収について問題のない貸出金	17,687 (80.7%)	—	—
II分類 回収について注意を要する貸出金	4,215 (19.2%)	—	—
III分類 回収について重大な懸念がある貸出金	0.2 (0.0%)	0.2	0
IV分類 回収不能と判定される貸出金	4 (0.0%)	4	0
合 計	21,907 (100.0%)	4	0

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

※2018年度以前に引当てした貸出金はI分類となっています。

※III分類、IV分類の貸出金は2019年4月1日から2019年9月末までに発生したものを計上しています。

9月末現在、III分類、IV分類の貸出金は合計4億円ありますが、これについては、決算時に全て償却・引当処理し、当金庫の不良債権は実質ゼロとなる見込みです。

なお、分類貸出金については、法律で開示が義務付けられていないため、開示していない金融機関がありますが、当金庫は、経営内容をガラス張りにして開示する観点から自主的に開示しています。

5 上半期の要償却・引当額、実質損失額

III分類、IV分類の貸出金は合計4億円ありますが、2018年度以前に引当てした貸出金からの回収額が2億円ありますので、上半期の要償却・引当額は2億円となりました。なお、2018年度以前に償却した貸出金からの回収額が0.8億円ありますので、9月末現在の実質損失額は1億円となりました。

(金額単位:億円)

	金 額
上半期に発生した回収懸念・不能見込額	4
2018年度以前に引当てした貸出金からの回収額	2
上半期の要償却・引当額	2
2018年度以前に償却した貸出金からの回収額	0.8
上半期の実質損失額	1

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

6 金融再生法で定められた債権区分

「金融再生法で定められた債権区分」は次の通りです。このうち、「危険債権」と「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」の無保全額については、引続き回収に鋭意取り組んでまいりますが、万一、年度末までに回収できない場合は、決算時に全て償却・引当処理する見込みです。

(金額単位:億円)

	金額(構成比)	うち無保全額	償却・引当予定額	償却・引当後無保全額(見込み)
正常債権	21,394 (97.6%)	—	—	—
要管理債権	44 (0.2%)	—	—	—
危険債権	386 (1.8%)	0.2	0.2	0
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	94 (0.4%)	4	4	0
合計	21,918 (100.0%)	4	4	0

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

※「金額(構成比)」は、単位未満を四捨五入しています。

※預金担保貸出金は、要管理債権には該当しないため、要管理債権から除外しています。

7 信用金庫法で定められたリスク管理債権

「信用金庫法で定められたリスク管理債権」は次の通りです。「リスク管理債権総額」264億円のうち、担保・保証が付いているものが223億円ありますので、担保・保証控除後の「リスク管理債権」、いわゆる無保全部分は40億円となっていますが、引続き減少に鋭意取り組んでまいります。

なお、今年度に入って発生した不良債権に対する引当分等や、回収された引当金を加味すると、貸倒引当金残高は39億円、貸倒引当金控除後のリスク管理債権は0.8億円となります。

(金額単位:億円)

	金額
リスク管理債権総額(A)	264
破綻先債権額	17
延滞債権額	96
3か月以上延滞債権額	—
貸出条件緩和債権額	150
うち担保・保証付き債権額(B)	223
リスク管理債権(C)=(A)-(B)	40
貸倒引当金残高(D)	39
貸倒引当金控除後のリスク管理債権(E)=(C)-(D)	0.8

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

8 有価証券の状況

9月末における有価証券の保有状況は次の通りです。

◆売買目的有価証券、満期保有目的の債券

該当ありません。

◆その他有価証券で時価のあるもの

(金額単位:百万円)

	帳簿価額	時価	評価差額	評価差額の内訳	
				過年度処理済額	今年度増減額
株式	87	207	120	123	△3
債券・その他	357,686	362,490	4,804	5,202	△398
合計	357,774	362,698	4,924	5,325	△401

※評価差額の過年度処理済額は、税効果相当額を控除し、純資産の部にて処理が済んでいます。

◆時価を把握することが困難な有価証券

その他有価証券(非上場株式)	225百万円
子会社・子法人等株式	30百万円
組合出資金	208百万円

(注)各計数は、単位未満を切り捨てて表示していますので、合計が一致しない場合があります。

「2019“よい仕事おこし”フェア」を開催しました

2019年10月7日(月)、8日(火)の2日間、全国47都道府県から229の信用金庫の協力・協賛のもと、東京国際フォーラムにおいて「2019“よい仕事おこし”フェア」を開催しました。「信用金庫による地方創生!」「日本を明るく元気に!」をメインテーマに、521の企業・団体がビジネスエリアや観光・物産エリア等にブースを出展したほか、バイヤー商談会やご当地キャラグランプリ、各種ステージイベントも開催。全国のご当地グルメが集まる「うまいもの広場」も、大勢のお客様で賑わいました。



開会式には、各信用金庫関係者をはじめ、田中和徳復興大臣や小池百合子東京都知事がお越しくださったほか、小泉純一郎元首相も当フェアの様子を視察されました。

協賛・協力信用金庫数	229金庫
出展ブース数	521ブース
事前商談申込件数	1,821件
バイヤー企業数	31社
バイヤー商談件数	244件
来場者数	約47,600名



また、信用金庫のネットワークにより全国をひとつにする取組み「地域連携プロジェクト」を今回も実施し、全国47都道府県のお米をブレンドしてつくった日本酒「絆舞 令和」、被災8道県産米をブレンドしてつくった焼酎「絆咲」、これらを使用したカステラやパウンドケーキ等を販売しました。会場内には被災地復興応援メッセージボードや義援金の募金箱も設けられ、多くの皆様にご協力いただきました。

2日間での来場者数は過去最多の約47,600名となりました。ご来場、ご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

「よい仕事おこしネットワーク」を立ち上げました

信用金庫業界では、地域活性化・中小企業のさらなる発展をめざし、全国の信用金庫約7,400の店舗網を活用した「よい仕事おこしネットワーク」を立ち上げました。販路拡大をはじめとするお客様のさまざまなお悩みごとを各信用金庫の担当者を通じて受け付け、専属のコーディネーターが全国の信用金庫やバイヤーに発信することで、地域の枠を超えた横断的な解決につなげます。

地域活性化や地元産業の振興に向け、山口県宇部市・下関市・長門市、静岡県、奈良県橿原市、福島県飯舘村、岐阜県大垣市等、地方自治体にも続々と参加いただいております。すでに多数のマッチングが成約しています。



専用サイトはこちら



静岡県と覚書を締結

「事業承継支援部」を設置しました

中小企業の経営者の高齢化が進む中で、企業が有する優れた技術やノウハウ等を円滑に次世代に承継していくことは、日本経済の活力維持、継続的な発展にとって不可欠です。

こうした中、当金庫では、多くの企業が直面する事業承継にかかるさまざまな課題解決に一層取り組んでいくため、これまで企業経営サポート部内に設置していた「事業承継支援室」を、2019年6月19日（水）より「事業承継支援部」として独立させました。



台風による被害を受けた被災地に対し支援物資を寄贈しました

当金庫では、2019年9月に発生した台風15号の被害により、長期間の停電等による大きな被害を受けた千葉県の実地地に対し、館山信用金庫を通じて支援物資を寄贈しました。

当金庫の備蓄品からタオル1,000本、フリーズドライカレーごはん1,000食、飲料水120本を寄贈したほか、お取引先である株式会社フジワーク様から軍手1,440組、株式会社三越伊勢丹様からレトルトカレー1,020食、株式会社永谷園様からフリーズドライ味噌汁2,040食、福島県矢祭町から梨900個をご提供いただき、2019年9月19日（木）、川本理事長をはじめとする役職員が館山信用金庫にお届けしました。



また、2019年10月には台風19号が全国に甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

「第9回城南CUP」「第6回城南ガールズCUP」が開幕しました

当金庫では、城南地区（大田区、世田谷区、目黒区、品川区）の少年軟式野球チームが他区のチームと交流戦を行うことで、地域社会の未来を担う子どもたちに夢や希望を持ってもらうことを願い、毎年「城南CUP」を開催しています。

2019年10月5日（土）より、「第9回城南CUP」および「第6回城南ガールズCUP」が開幕しました。各区の代表に昨年の優勝・準優勝チームを加えた18チームと、女子の各区の代表4チームの計22チームが優勝をめざしてトーナメント戦を繰り広げます。試合日程や結果については、随時、当金庫ホームページに掲載してまいります。

